

2024年7月18日(水)

老球の細道 814

### 「オラ！ スペインへ 恵まれた環境」⑦

・・・ユーロバスケットボールツアー紀行〈Ⅲ〉・・・

会津バスケットボール協会 室井 富仁

ローマ帝国を築き上げたジュリアスシーザーは「概して、人は見えるものより、見えな  
いことに思い悩むものである」と言っていた。取り越し苦労が過ぎると、人生のいたるところで消極的になり、せっかくの飛躍のチャンスを失いやすい。また、人によっては心を  
痛め、精神をまいらせてしまう。取り越し苦労というのは、見えないものを自分の想像力  
を使って勝手につくってしまっていることがほとんどである。

昨夜の血圧上昇とクスリによる副作用によるパニックでどうなることかと思っただ、無  
事目覚めることができた。私自身も取り越し苦労のしすぎだった。血圧の上昇も実はたい  
したことではなく、たまたま場所が外国だからということでパニックになってしまった。  
だから負の連鎖が続き、昨夜のような状況になってしまったのだろう。

チャーチルは言う「危険が身近に迫った時逃げ出すようでは駄目だ。かえって危険が2  
倍になる。決然として立ち向かえば危険は半分に減る。何事に出会っても決して逃げるな」。

【2014年 2月7日(金)】

今日は14歳以下の大会「ミニ・コパ」を観戦することからスタートした。この大会は  
コパ・デルレイ(国王杯)に参加している8つのトッププロチームの育成年代U-14(中学  
生)世代のトーナメント戦である。中学生といっても両手でダンクするプレーヤーもたく  
さんいて日本の中学生レベルでは考えられないくらい迫力があつた。

驚いたのは試合コートが海岸沿いの港に特設コートが作られ、そのアウトコートで試合  
が行われていたことである。しかもそこにはテレビ局が実況放送をし、プロのスカウト連  
中も含め多くの観客が集まっていた。港には豪華客船が停泊している。

コートの周囲には様々なFUN ZONEがあり、こどもたちのために色々なアトラクシ  
ョンが併行して行われていた。ショップやバスケットボール博物館などのブースが設けられ、  
ゲームのみならず色々な楽しみかたで時間を過ごすことができた。さすがスペイン。この  
ような環境のもとでバスケットボールができるこどもたちは幸せである。

午後からはウニカハ・マラガの体育館に行き、U-15,U-18 育成世代の練習を見学した。タ  
クシー会社がバスケットボールの国王杯を機に賃上げ目的のストライキに入ったため、バ  
スで移動した。スペインマラガのバスはトロリーバスで、車両が2台あり長さが20メ  
ートルを越える。運転手の技術は相当なものである。

育成世代の練習見学を終えてから歩いてアリーナへ。今日は準々決勝で19時からパレ  
ンシア対ラボラル・クチャ、21時半からFCバルセロナ対イベロスター・テネリフェ。  
昨日は途中で帰ってしまったので気がつかなかったが、ゲーム会場のアトラクションが面  
白かった。TVカメラで写されたカップルがブッチュをする。そのシーンが会場の天井につ  
るされているオーロラ・ビジョンに映されて盛り上がる。若者から老人カップルまで恥ず  
かしがらずブッチュをする。改めて民族の文化の違いを感じさせられた。

今日はブッチュをたくさん見せられたせいにか久しぶりに熟睡。こんなに安心して眠れた  
のは何日ぶりだろう。2回の峠を乗り越えた今、もう怖いものはない。なんちゃって〈続〉